番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
1	議題1	岐阜県案だと、意向どおりにするということで、何も変わらないような気がする。紹介受診重点医療機関に係る協議というのは、もっと具体的に何か進行するものだと思っていたが、全国でも同じようなものなのか。岐阜県だけが医療機関の希望どおりにするものなのか。	全国一律の方法に沿った形となっており、ご了承いただきたい。
2	議題1	画期的に外来のかかり方が変わっていくものだと思っていた。これでは多分何も変わらないのではないか。国の方針なら仕方ないが。	
3	議題1	（長良医療センター） 主に成人の呼吸器疾患、小児疾患、障害者医療等を中心に診療している。どうしても紹介受診重点外来の割合が低く出てしまう。紹介率・逆紹介率も7月の単月の数値で、年間であれば岐阜県の基準を満たしている。医療機器共同利用も積極的に行い、地域のかかりつけ医の皆様に広く開放し利用を頂いている。高齢者医療にも力を入れ、緩和ケア、認知症診療も始めており、紹介率・逆紹介率を増やしていく。	・特殊性を持たれており、長良医療センターのようなケースは認めることに賛成。 ・年間を通じて紹介率・逆紹介率の基準を満たしているのであれば、認めても良いのではないか。
4	議題1	基準を満たし、意向が無い医療機関が、紹介受診重点医療機関になっていかないと、外来の機能分化が進まないのではないか。	
5	議題1	紹介率・逆紹介率は、年間なのか、単月なのか、決まりはあるのか。	今年度については、7月の単月の値となっている。次回以降については、まだ不明な状況。 （R5.9.6追加回答） 国に確認したところ、次回の令和５年度外来機能報告については令和４年７月～令和５年３月の９か月間、令和６年度外来機能報告については令和５年４月～令和６年３月の１２か月間を対象とする予定です。
6	議題1	紹介率について、コロナの影響で新患が多くなり、低くなっている。単月であることに不安を覚えた。	
7	議題1	（事務局） 岐阜圏域については事務局案と異なり、長良医療センターを紹介受診重点医療機関であると確認し、西濃圏域、中濃圏域については事務局案のとおり、という形と整理をさせていただく。	
8	議題2	小児科の医師偏在指標は、小児科医の数か、新生児科の医師の数か。	三師統計の小児科全体の数が母数となっている。
9	議題2	新生児、特にNICUの医師がかなり少ないと聞いている。小児科全体とするとかなり幅広だと思う。小児科全体で良いのか、周産期を支えるという意味で大事なことではないかと思い、気になった。	

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
10	議題2	絶対的に医師が不足している診療科がある。地域枠について、特に医師が不足している診療科に限り、入学時にある程度診療科を設定することが必要ではないか。以前、憲法違反だと言われたが、税金を使っている以上、考慮しても良いのではないか。	医師総数が充足している県で、診療科を限定して運用している例もある。一方で当県は、医師総数自体が不足しており、診療科別でも全国平均を下回る診療科が多い。医師不足診療科に限っても、大半の診療科が該当する状況なので、現段階では診療科を限定せずに運用している。医師総数の充足状況と診療科別の充足状況の兼ね合いを見ながら、今後の検討課題であると認識をしている。
11	議題2	医療計画と新興感染症の協定指定医療機関の関連で現時点で分かっていることを教えて欲しい。	具体的な状況はまだわかっていない。感染症対策推進課で個別に会議を行っており、その中で明らかになっていくものだと思っている。その議論の結果のフィードバックを受け、医療計画を作っていきたいと思っている。
12	議題2	医師会の高齢化が進んでいる。平均年齢が６５歳から７０歳になっている医師会がある。第８期、第９期医療計画となると、平均年齢が７０歳を超えていき、開業医が維持できなくなっていく。次は継承をどうしていくか、という問題に発展していくが、県の考えは。	開業医の問題もそうだが、在宅医療の担い手も７０歳代の先生方が主軸になっていただいている状況。医療需要が引き続き高い中で、医師の数が今後減り得る状況にあると認識をしている。 勤務医を選ばれる方が多く、開業医が比率として下がってきている。専門医制度も含め、臓器別で高度医療を極めるという方向に進んでいるということもあり、急激に改善する状況には無いと思っている。 先の飛騨圏域の会議で示唆を受けたが、事業承継について、何らかのバックアップをするような手だてについて、医師会と連携してできることがないか、研究をさせていただくと非常に価値があるのではないかと考えている。
13	議題2	医師少数スポットの設定について見直しがあり、次期計画においては原則として市町村単位で設定することがガイドラインで記載されている。医療圏における偏在を市町村体で見直していく必要があるのではないか、ということが指摘されていると理解している。説明では、従前のやり方でやっていく、ということだが、見直しを図るべきではないか。	いただいた意見も踏まえ、内容等も詳しく確認しながら検討を進めさせていただく。
14	議題2	中濃圏域は、医師が不足している地域ではない、とされている。美濃加茂市と郡部と分けて計算をしていただけるとありがたい。非常に不足しているのが見えてくると思う。	
15	議題2	へき地医療圏について、飛騨圏域と同じような地域だが、白川町が入っていない。国が定めているので、厳しいかと思うが、白川町、ほかの地域もあるかと思うが、へき地医療圏に入ると思うが、どうなっているのか。	白川町の取扱いについては、調べてみないと分からないので、状況を把握、確認させていただく。 （R5.9.6追加回答） 診療報酬上、別表第六の二厚生労働大臣が定める（医療資源の少ない）地域に指定されているのは、高山市、飛騨市、下呂市、白川村。指定基準は、公表されていない。
16	議題2	周産期医療圏、小児医療圏について、NICUやGCUがしっかりないと厳しいと思う。	ご指摘の点が、小児医療圏が岐阜と中濃で一緒になっている理由。今後、中濃圏域の特異な状況を解消していかなければならないという趣旨で、次期計画期間６年間をかけて何とかできないかと考えている。
17	議題2	新生児を診ていただける医師の数をしっかり見ていかなければならないと思う。	

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
18	議題3	岐阜圏域では、回復期が必要病床数と乖離しているが、急性期病院で転院先が見つからないといった状況はないか。	・転院に時間はかかっているが、周りの病院に協力をいただいている。岐阜圏域に西濃圏域からの依頼も来ている。岐阜、西濃圏域を合わせて、もう少し回復期病院の整備がいるのではないか。 ・何とかやれている、という状況。現状を維持できないと急性期患者の受入れに今後影響が出る。 ・総合患者サポートセンターを作り、各医療機関にお願いをしている。 ・一番ネックになるのは、患者さんにまだ１つの病院で完結しようという気持ちが残っていること。患者さんの意識改革が大事であると思っている。
19	報告1	いくつかの病院を飛び越えての連携ということで、若干違和感を感じている。将来的に、近隣の病院との連携が必要になった場合に、円滑な連携を妨げるものにならないか、杞憂かもしれないが心配をしている。近隣の病院との連携を妨げることのない運用をお願いしたい。	愛知県でもそうだが、医療圏を越えた連携推進法人が既にある。協力できるところからまず協力していく、ということが大きなポイントだと思っている。もちろん、地元において不協和音が生じることは絶対無いように検討しながら進めて行きたいと思っている。（松波総合病院）
20	報告1	地域医療連携推進法人には、法人内で病床融通が可能となる。医療圏が３つにまたがっているが、手続き上はどうなるのか。	それぞれの地域医療構想等調整会議で、協議をさせていただきたいと思っている。（松波総合病院）
21	報告1	地域医療構想等調整会議では、よく医療圏からの患者の流出の話になる。今後、流出入も含めて、患者数を考えていく中で、どういう医師配置をしていくかという議論が必要となる。先ほど、医療圏を越えてサポートする必要がある、という話もあったが、圏域ごとの調整会議との整合性をうまく図っていけると良い。	
22	報告2	西美濃厚生病院は、今後どうなるのか。	急性期病床は無くし、慢性期病床を維持する。上石津の診療所への医師派遣を継続し、引き続きへき地拠点病院とする計画。（揖斐厚生病院）
23	報告2	昨年度は岐阜、西濃を別に行っていた。岐阜圏域の人にとって、あまり伝わっていない部分もあると思うので、理解をしていただけるように、説明をいただけると良いと思う。	
24	アドバイザー	これからの医療を考えていく中で、圏域にこだわっていてはいけない部分もあるのではないかと考える。統計についても、圏域にこだわらず、中心部とその外側と、それぞれで出していかなければならないのではないか。 今後、医療資源の中で一番枯渇していくのは、医者だと思うが、県にお願いをしてもどうにもならないところではあると思う。大学医局に依存している部分がまだあるので、そういったところが上手く分配いただけると良いと思うし、大学での教育も、大病院での勤務医志向で高度医療が楽しいという教育だと、岐阜県の医療は崩壊してしまうと思うので、学生への教育も重要なのではないかと思う。	
25	アドバイザー	各圏域の問題点も踏まえつつ、地域の方々、行政、大学、といったところで、問題点を解決する方向で動いていきたい。岐阜県の場合は、大学医局が岐阜大学だけではないので、愛知県の大学とも連携して、岐阜県の医療のために尽くしていきたいと思っている。	